

サステナビリティへの取り組み：質疑応答

Q. 取引先の移行リスクへの対応状況について。エンゲージメントを重ねていくなかで、改善が見られない取引先に対する〈みずほ〉の対応方針を定めたガイドラインはあるか。また、中間目標を設定しているセクターとのエンゲージメントについて、対応状況の進捗管理をしているか。

A: プレゼン資料“サステナビリティへの取り組み”の P29 に記載したように、取引先の移行リスクへの対応状況の進捗を見ると、「移行リスクの認識がない」「移行リスク対応戦略がない」と評価した取引先は現状ゼロであり、足元の課題はそれよりもっと進んでいる取引先の移行をどのようにエンゲージしていくのかということ。〈みずほ〉では、移行リスクへの対応状況の評価基準の高度化を進めており、今後については次の2点を変更して対応していく予定。まず、「パリ協定と整合した目標を設定している」「目標を踏まえた具体的な取り組みを実施している」と評価した取引先については、例えば「目標に対する一定の GHG 排出削減の実績があるのか」といった基準を入れ、ステップを踏むことでより細分化して評価をしていく予定。また、「第三者認証等により目標達成に向けた軌跡上にあることが確認できる」「目標達成が確実である」と評価した取引先については、「目標と実績が 1.5°C の軌道に整合しているか」といった基準を入れ、取引先とのエンゲージメントにおいてもより具体的で粒度の細かい対話を通じて、トランジションを支援していきたいと考えている。今後も、枠組みの高度化を続けていく。

Q. メタン排出の削減に対する目標や取引先とのエンゲージメントの状況

A: 温室効果に関しては CO2 よりもメタンの方がはるかに高いとの認識であり、〈みずほ〉の融資からの排出量にはメタンも含まれることから議論も当然している。一般的にメタン排出が多いセクターである酪農については、〈みずほ〉は取引先が少ない。石油・ガスセクターをはじめ、メタンを含む温室効果ガスの排出削減に、取引先と一緒にどのように取り組んでいくか、その中で〈みずほ〉が金融面、金融を超えた面でどうご支援できるかという観点を踏まえて、対応を進めている。

以 上